

戦略思考のための 参考書籍リスト

経営戦略コンサルタントが実際に読み込んだ1,335冊の読書履歴から厳選。「戦略の型」「思想の深度」「歴史の構造」「現場の知」の4軸で、戦略思考を鍛える23冊。

CONTENTS

- 01 戦略の型を学ぶ — 7冊 — 事業戦略・経営戦略の古典と実践書
- 02 思想の深度を上げる — 5冊 — 哲学・倫理・人間観を磨く
- 03 歴史から構造を読む — 5冊 — 成功と失敗のパターンを見抜く
- 04 現場を知る — 5冊 — フィールドのリアリティを取り込む

本リストの使い方

全冊を通読する必要はありません。今の課題に応じて、1冊を選び、読み方のヒントを参考に深く読む。各書籍に付けた「▶」マークは、筆者が実務で活用している読み方のヒントです。複数回読んだ書籍には「◎」を付けています。

CHAPTER 01 戦略の型を学ぶ

7冊

事業戦略・経営戦略の古典と実践書。「型」を知ることで、現実の問題に適用する力を磨く。

企業参謀

大前研一

戦略コンサルタントの思考法を体系化した原典。「戦略的思考とは何か」を問い直すための出発点。事実を分解し、構造を見抜き、仮説を立てる「分析の技法」を実例で示す。

- ▶ 第1章の「戦略的思考の技術」だけでも十分な価値。クライアントへの提案前に「問いの立て方」を確認するために繰り返し読む

戦略プロフェッショナル

三枝 匡

広島为重工業企業を舞台に、ミドルマネジャーが戦略を「実行」するリアリティを描く。分析だけでなく、組織を動かす「戦略の実装」までを追った実践書。

- ▶ 三枝3部作の第1作。続くV字回復・経営パワーと合わせて読むと、「現場で戦略が死ぬ原因」が見える

V字回復の経営

三枝 匡

恐ろしい勢いで赤字転落した事業を、構造改革で立て直す過程を描く。「組織の慣性」との闘い、リーダーの孤独な判断、実行のスピード。ターンアラウンドのリアルを知る必読書。

経営パワーの危機

三枝 匡

日本企業が繰り返す「戦略不全」の根本原因を解剖する。「なぜ日本企業は戦略的思考が苦手なのか」という問いに、組織論から答える。

ザ・会社改造

三枝 匡

三枝がミスミ会長として実際に行った企業変革の全記録。コンサルタントから経営者へ転身した著者の実践知が凝縮。

- ▶ 「戦略を語る人」と「戦略を実行する人」の差を痛感する。4冊連続で読むことで三枝の思想が立体的に見える

戦略の要諦

リチャード・P・ルメルト

「良い戦略とは何か」を突き詰めた一冊。「戦略とは診断である」という命題は、コンサルタントの仕事の本質を言い当てている。

- ▶ 「悪い戦略」の特徴リストだけでも、自社の戦略を点検するチェックリストになる

会社という迷宮 ⑥

石井光太郎

「企業とは何か」を哲学的に問う。戦略の前に「企業が存在理由」を問うことの重要性。CDIの思想的根幹が凝縮された一冊。

- ▶ 3回読了。毎回新しい発見がある。「戦略より前に問うべき問い」を定義してくれる

※ CDIニュースレター（コーポレートディレクションズ）— 書籍ではないが、「戦略とは何か」を考えるための最良の素材集。石井光太郎氏を中心とするCDIの思想を、具体的な事例と共に短い論考で展開。「会社という迷宮」と併せて読むことを推奨。検索: 「CDI ニュースレター」

CHAPTER 02

思想の深度を上げる

5冊

戦略思考はフレームワークだけでは磨けない。哲学・倫理・人間観が思考の土台を作る。

肩をすくめるアトラス

アイン・ランド

「創造する個人」と「集団の論理」の根本的な対立を描く大著。「価値を生み出す人間」と「価値を消費する人間」の対比は、経営におけるリーダーシップ論としても読める。

▶ 全編読破には覚悟が要るが、第3部「A=A」の演説から入るのも一手

セネカ 道徳書簡集 ◎

セネカ（ルキウス・アンナエウス）

ストア哲学の実践書。「自分で制御できるもの」と「できないもの」を分ける思考は、経営におけるリスク管理と意思決定の土台になる。平易な文体で深い洞察を伝える。

▶ 2回読了。朝の通勤で毎日1通ずつ読むと、その日の意思決定の軸が定まる

菜根譚 ◎

洪自誠

中国古典の処世訓。「功を立てようとする時にその引き際を考える」という教えは、事業開発と撤収の両方に通じる。短い章句の集積だが、それぞれが独立した洞察。

▶ 3回読了。「事がうまくいかない時」に開く本。経営者としての器量を問う書

墮落論

坂口安吾

「墮落せよ」という挑発の先にあるのは、安易な結論への拒否。「自分の頭で考える」とはどういうことか。通念への疑いを止めない態度が、戦略思考の原点。

暇と退屈の倫理学

國分功一郎

「退屈」とは何かを哲学的に探究。消費社会の構造を分析する視座が、マーケティング戦略やブランディングの議論に直結する。「人はなぜそれを買うのか」を根本から問う。

CHAPTER 03

歴史から構造を読む

5冊

「過去のパターン」を知ることで、未来の戦略を構想する力が磨かれる。

ローマ帝国衰亡史

エドワード・ギボン

巨大な組織がなぜ衰退するのか。ローマ帝国の崩壊過程は、現代の大企業が直面する「成功後の弱体化」の構造と重なる。「なぜ勝った組織が負けるのか」を問う古典。

▶ 全巻読破は不要。第1巻と終巻を読むだけで、衰亡の構造が見える

貞観政要

呉 兢（編）

唐の太宗の政治論。「リーダーが諫言をどう受け入れるか」は、現代の経営におけるフィードバック文化の論点と同じ。「組織の上に立つ者の責任」を問う。

上杉鷹山

童門冬二

藩財政破綻からの再建。米沢藩の改革は、現代のターンアラウンド経営と確かな相似。「制約条件下での戦略」を歴史から学ぶ。

失敗の本質

戸部良一 他

日本軍の組織的失敗を分析。「空気」で意思決定が歪む構造は、現代の日本企業にも通底する。「なぜ正しい判断ができないのか」を組織論で解く。

▶ 「空気の研究」（山本七平）とセットで読むと、日本的組織の病理が立体的に見える

空気の研究 ◎

山本七平

「空気」という日本独特の意思決定構造を解明。「なぜ論理的に正しくても「空気」に押し流されるのか」。組織コンサルティングで最も頻繁に直面する現象の解析書。

▶ 2回読了。クライアントの組織診断で「なぜこの会社は変わらないのか」を考える時の必読書

CHAPTER 04 現場を知る

5冊

戦略はオフィスでは生まれない。現場のリアリティを取り込むための5冊。

ルワンダ中央銀行総裁日記

服部正也

日本人がアフリカの中央銀行総裁として経済再建に取り組んだ記録。「制約だらけの環境で、どこから手をつけるか」という問いは、新規事業開発と本質的に同じ。

▶ 「やるべきことが無限にある時、何を「やらないか」が戦略」を体感できる

バナナの世界史

ダン・ コッペル

一つの商品を軸に、グローバル経済・植民地主義・科学技術・政治の構造を描く。「バリューチェーン全体を一つの商品から見る」という視座は、産業分析の訓練になる。

チョンキンマンションのボスは知っている

小川さやか

香港の雑居ビルを拠点に、インフォーマル経済のリアルを描く。「公式の経済学が捕捉できない経済活動」の存在を知ること、新興国市場の読み方が変わる。

力なき者たちの力

ヴァーツラフ・ ハヴェル

チェコスロバキアの劇作家が書いた政治エッセイ。「圧倒的な力の差がある時、個人は何ができるか」という問いは、大企業の中で変革を起こすミドルマネジャーの立場と重なる。

百年の孤独

ガブリエル・ ガルシア＝マルケス

南米の一族の興亡を描く大作。「繰り返されるパターン」を読み取る訓練として。小説だが、事業承継・組織の世代交代を考える確かな素材になる。

読書を戦略思考に変えるために

■ 「通読」より「問い読み」

漫然と読まない。「今の自分の課題に、この本は何を教えてくれるか？」という問いを立ててから読む。問いのない読書は情報の消費にしかない。

■ 「複数冊セット」で立体視

同じテーマを複数の著者の視点で読む。例: 三枝匡 (実践者) × ルメルト (理論家) × 石井光太郎 (哲学者)。一冊で得られる洞察には限界がある。

■ 「時間を置いて再読」が最大の投資

本リストで◎を付けた書籍は、複数回読んで毎回新しい発見があったもの。経験を積んでから読み返すと、同じ本から全く違う洞察が得られる。

■ 「アウトプット前提」で読む

「この本の内容を、明日のプレゼンでどう使うか？」を意識して読む。インプット (読む) だけで終わる読書は、戦略思考を磨かない。

戦略思考を実務に接続する

Cobe Associeは、戦略コンサルティングファームとして、経営戦略の策定から実行伴走までを支援しています。「本で学んだ思考法を、自社の課題に適用したい」とお考えの方は、お気軽にご相談ください。

お問い合わせ: cobe.co.jp